

愛知県公立大学法人  
第二期中期目標期間における業務実績に関する評価結果

令和元年9月

愛知県公立大学法人評価委員会



# 目 次

はじめに	1
<b>第1 全体評価</b>	
1 評価結果と判断理由	1
(1) 評価結果	
(2) 判断理由	
ア 項目別評価	
イ 評価に当たって考慮した項目	
2 評価に当たっての意見、指摘等	4
<参考>	
○ 各年度（平成25～30年度）の業務実績に関する評価結果	5
<b>第2 項目別評価</b>	
1 教育研究等の質の向上に関する項目	
(1) 評価結果	7
(2) 各大学の教育研究等の質の向上に関する評価結果	8
<b>【県立大学】</b>	
ア 小項目評価結果	8
イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	8
(ア) 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
(イ) 遅れている項目[評価Ⅱ]	
(ウ) 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
ウ 評価に当たっての意見、指摘等	9
<b>【芸術大学】</b>	
ア 小項目評価結果	10
イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	10
(ア) 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
(イ) 遅れている項目[評価Ⅱ]	
(ウ) 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
ウ 評価に当たっての意見、指摘等	11
2 法人運営の改善に関する項目	
(1) 評価結果	12
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	12
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	

(3) 評価に当たっての意見、指摘等	12
3 財務内容の改善に関する項目	
(1) 評価結果	13
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	13
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	13
4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に 関する項目	
(1) 評価結果	14
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	14
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	14
5 その他業務運営に関する重要項目	
(1) 評価結果	15
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	15
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	15

<参考>

**参考資料**

- 愛知県公立大学法人の第二期中期目標期間の業務実績評価実施要領…………… 16
- 愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿…………… 18

## はじめに

愛知県公立大学法人の第二期中期目標期間の業務実績について、「愛知県公立大学法人の第二期中期目標期間の業務実績評価実施要領」に基づき、中期計画に定めた項目（８８項目）について、下記のとおり評価を行った。

### 記

評価は、中期目標に対する進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、事業活動全般、業務運営（財務、人事等）などの法人の活動全体について評価する「全体評価」により行った。

## 第 1 全体評価

### 1 評価結果と判断理由

#### (1) 評価結果

中期目標の達成状況がおおむね良好であると認められる。

#### (2) 判断理由

次表の項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況・業務の運営状況など、法人の活動全体について評価した。

#### ア 項目別評価

#### 項目別評価結果一覧

大 項 目	評 価					項目別評価の内容
	S	A	B	C	D	
教育研究等の質の向上に関する目標		○				7 頁
法人運営の改善に関する目標		○				12 頁
財務内容の改善に関する目標				○		13 頁
教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		○				14 頁
その他業務運営に関する重要目標		○				15 頁

#### ※ 評価基準

- S 中期目標の達成状況が非常に優れている。
- A 中期目標の達成状況が良好である。
- B 中期目標の達成状況がおおむね良好である。
- C 中期目標の達成状況が不十分である。
- D 中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。

## イ 評価に当たって考慮した項目

存在感と信頼感のある「誰もが誇りに思う大学」を目指し、自立した個人として時代に向き合い、地域・世界に貢献できる人材を育成する教育の充実に重点的に取り組むという第二期中期目標の方向性に沿って実施された第二期中期目標期間の取組について、法人による自己点検・自己評価を検証した結果、特筆すべき（高く評価した）項目、遅れている項目、特記事項記載等の項目を次のとおり確認し、全体評価に当たって考慮した。

<特筆すべき（高く評価した）項目>

**【教 育】**

○看護師国家試験の合格率 [13：県立大学]

- ・看護師国家試験の合格率について、全ての年度で全国水準を上回るのみならず、平成 26・29・30 年度については、看護師、保健師、助産師国家試験についても合格率 100%を達成

○次世代ロボット研究所の開設 [14：県立大学]

- ・次世代ロボット研究所の開設により、研究所の実証実験スペースや設備等を活用した企業等との共同研究を実施
- ・共同研究への学生の参画等、教育における研究所利用の幅を拡充

○キャリア形成支援体制の強化 [28：県立大学]

- ・ガイダンス・セミナーの充実や学内企業説明会の規模の拡大など、キャリア支援体制を強化
- ・キャリア支援室と国際交流室の連携を強化し、両室の協働による「留学×キャリアセミナー」を実施

○在学生から卒業生まで幅広いキャリア支援 [55：芸術大学]

- ・「芸術学生のための合同企業説明会」の規模・内容を充実させながら継続的に実施し、就職希望者における内定率が初めて 90%に到達
- ・「エマージングコンサート」「アート・マネジメント」「若手芸術家育成プロジェクト」を実施し、在学生から卒業生まで幅広く自立支援を推進

**【研 究】**

○教員による芸術活動の推進・成果の発信 [59：芸術大学]

- ・海外協定校へ教員を派遣し、合同コンサートの実施や講演・ワークショップ、国際シンポジウムでの成果発表など海外において芸術活動の成果を発信
- ・創立 50 周年記念事業としてオペラ公演や国際的なシンポジウム、展覧会など多数の企画を実施

**【地域連携・貢献】**

○愛知県の政策・施策の推進支援 [37：県立大学]

- ・教員による愛知県審議会等への参画件数の大幅な増加
- ・愛知県の「I o T 活用促進事業実施委託業務」の実施機関に選定され、「I o T 活用相談窓口」を開設するとともに、I o T 導入プロジェクト創出支援の取組を実施し、4 件のプロジェクトを創出
- ・愛知県の「認知症パートナー大学」への登録を受け、「認知症サポーター養成講座」を開催

**【自己点検・評価及び情報の提供】**

○大学のブランド・知名度の向上に向けた広報活動 [80]

- ・広報活動計画の策定や広報戦略会議の立ち上げ
- ・記者発表件数及び新聞掲載件数の大幅な増加

<遅れている項目>

**【財務内容】**

○一般管理費比率の対前年度比減 [78]

- ・一般管理費比率の対前年度比減という数値目標の不達成（26、28、29 年度）

## <特記事項記載等の項目>

### 【教 育】

#### ○H28 英米学科卒業生の7割がTOEIC800点以上 [9: 県立大学]

- ・28年度英米学科卒業生のうち800点以上獲得者の割合は47.5%で、7割という指標は達成できなかったものの、29年度及び30年度卒業生では60%以上が800点以上となっており英語力が向上

#### ○留学生の派遣・受入促進 [27: 県立大学]

- ・留学生用パンフレット等の作成、協定大学留学生受入プログラムの整備・留学生対象科目の設定など、留学生の派遣・受入体制を整備
- ・積極的な海外大学調査・交渉により、新たに43大学・機関との協定を締結し、派遣・受入学生数が大幅に増加

#### ○世界に通用する芸術家の育成 [47: 芸術大学]

- ・国際交流事業の充実やアーティスト・イン・レジデンス事業として世界で活躍する著名なアーティスト等を招聘し、専門・実技教育を実施
- ・パリ＝ソルボンヌ大学とのコチュテルの協定に基づき、音楽分野で日本初の博士号学位取得者を輩出

### 【地域連携・貢献】

#### ○栄サテライトギャラリー展覧会等入場者数4,000人 [64: 芸術大学]

- ・26～28年度において目標とした入場者4,000人以上を達成
- ・29年8月に諸般の事情により、やむを得ず閉廊したが、別の場所に新サテライトギャラリーの開設を決定し、2019年6月に開廊

### 【法人運営】

#### ○職員の資質向上に向けた組織的な取組 [73]

- ・「愛知県公立大学法人事務職員人材育成方針」を全面改正し、階層別研修や専門研修を計画的に実施するとともに、「教職協働」をテーマとした教員参加型の全学SD研修を初めて開催
- ・職員の短期海外派遣研修、名古屋大学との人事交流、愛知県及び文部科学省への研修生派遣を実現

## 2 評価に当たっての意見、指摘等

第二期中期目標期間の6年間において、理事長、学長のリーダーシップの下で、県立大学におけるグローバル人材の育成、芸術大学における文化財保存修復の研究など、各分野で多くの取組を積み上げ、成果を上げていることを評価する。

こうした第二期の成果を礎として、第三期中期目標である「社会の変化に的確に対応し、地域を担う人材の育成や地域への貢献を一層推進」し、存在感と信頼感のある「地域の重要な教育研究機関として活躍する大学」を目指していただきたい。

## <参 考>

### ○ 各年度（平成25～30年度）の業務実績に関する評価結果

#### 〔全体評価〕

	評 価 結 果
平成25年度	中期計画を順調に実施していると認められる。
平成26年度	中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。
平成27年度	中期計画を順調に実施していると認められる。
平成28年度	中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。
平成29年度	中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。
平成30年度	中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。

#### 〔項目別評価〕

##### (1) 法人運営の改善に関する項目

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計	評価
平成25年度	0	0	10	0	10	A
平成26年度	0	0	9	1	10	A
平成27年度	0	0	10	0	10	A
平成28年度	0	0	9	1	10	A
平成29年度	0	0	10	0	10	A
平成30年度	0	0	10	0	10	A

##### (2) 財務内容の改善に関する項目

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計	評価
平成25年度	0	0	3	0	3	A
平成26年度	0	1	2	0	3	C
平成27年度	0	0	3	0	3	A
平成28年度	0	1	2	0	3	C
平成29年度	0	1	2	0	3	C
平成30年度	0	0	3	0	3	A

(3) 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計	評価
平成25年度	0	0	3	0	3	A
平成26年度	0	0	3	0	3	A
平成27年度	0	0	3	0	3	A
平成28年度	0	0	3	0	3	A
平成29年度	0	0	1	1	2	A
平成30年度	0	0	1	1	2	A

(4) その他業務運営に関する項目

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計	評価
平成25年度	0	0	7	0	7	A
平成26年度	0	1	5	1	7	B
平成27年度	0	0	7	0	7	A
平成28年度	0	0	7	0	7	A
平成29年度	0	0	7	0	7	A
平成30年度	0	0	7	0	7	A

※「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目については、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて第二期中期目標期間の業務実績評価で評価するため、年度評価においては、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認のみで、評価は行っていない。

※ 項目数については、ウェイト考慮後の項目数である。また、中期計画の項目のうち法人が達成したものについては、翌年度の評価項目から除外している。

※ 評価基準

- S 特に優れた実績をあげている。
- A 順調に実施している。
- B おおむね順調に実施している。
- C 十分に実施できていない。
- D 業務の大幅な見直し、改善が必要である。

## 第2 項目別評価

### 1 教育研究等の質の向上に関する項目

#### (1) 評価結果

S	非常に優れている。(特に認める場合)
<b>A</b>	<b>良好である。 (すべてⅢ～Ⅳ)</b>
B	おおむね良好である。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	不十分である。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	重大な改善事項がある。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
評価区分ごとの項目数	0	0	59	6	65
評価区分ごとの項目数の内訳			59	6	65
教 育			40	4	44
研 究			8	1	9
地 域 連 携 ・ 貢 献			11	1	12

#### 評価区分

- I 中期計画を実施していない。
- II 中期計画を十分には実施していない。
- III 中期計画を十分に実施している。
- IV 中期計画を上回って実施している。

#### <参考>

[各大学別小項目評価]

区 分		教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
中期計画を実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
中期計画を十分には実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
中期計画を十分に実施している	総合	40	8	11	59	90.8
	県大	27	5	7	39	90.7
	芸大	13	3	4	20	90.9
中期計画を上回って実施している	総合	4	1	1	6	9.2
	県大	3	0	1	4	9.3
	芸大	1	1	0	2	9.1
計	総合	44	9	12	65	100.0
	県大	30	5	8	43	100.0
	芸大	14	4	4	22	100.0

## (2) 各大学の教育研究等の質の向上に関する評価結果

### 【 県立大学 】

#### ア 小項目評価結果

区分	教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	27	5	7	39	90.7
年度計画を上回って実施している	3	0	1	4	9.3
計	30	5	8	43	100.0

#### イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

##### (ア) 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

###### [13] 教育：看護師国家試験の合格率

看護師国家試験の合格率について、全ての年度で全国水準を上回るのみならず、平成26・29・30年度については、看護師、保健師、助産師国家試験についても合格率100%を達成した。

###### [28] 教育：キャリア形成支援体制の強化

OB・OGによるセミナー等を新たに開催するなどガイダンス・セミナーの充実を図りつつ、ニーズに対応しながら継続的に実施するとともに、学内企業説明会についても毎年規模を拡大しながら開催し、キャリア支援体制を強化した。

また、キャリア支援室と国際交流室の連携を強化し、両室の協働による「留学×キャリアセミナー」を新たに実施した。

###### [37] 地域連携・貢献：愛知県の政策・施策の推進支援

全ての年度において、教員が愛知県の審議会等委員として参画し、平成25年度には24件だった件数も、平成30年度には41件に増加した。

愛知県の「認知症パートナー大学」への登録を受け、「認知症サポーター養成講座」を開催するなど取組を推進した。

また、愛知県のIoT活用促進事業実施委託業務の実施機関に選定され、「IoT活用相談窓口」を開設するとともに、IoT導入プロジェクト創出支援の取組を実施し、4件のプロジェクト創出に至るなど、愛知県の政策・施策の推進を積極的に支援した。

##### (イ) 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

## (ウ) 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

### [14] 教育：次世代ロボット研究所の開設

法人自己評価「中期計画を十分に実施している」

→ 評価委員会評価「中期計画を上回って実施している」

#### 理由

次世代ロボット研究所の開設により、これまでは実施できなかった、研究所の実証実験スペースや設備等を活用した企業等との共同研究を実施した。

また、共同研究への学生の参画による教育の充実や、研究所の施設を活用した授業等の実施など、教育における研究所利用の幅を拡充したことから、「中期計画を上回って実施している」と評価できる。

### [27] 教育：留学生の派遣・受入促進

法人自己評価「中期計画を上回って実施している」

→ 評価委員会評価「中期計画を十分に実施している」

#### 理由

協定大学留学生受入プログラムの整備・留学生対象科目の設定をすることなどにより、留学生の派遣受入体制を整備し、留学生数も増加している。

積極的に海外大学調査・交渉を行い、協定大学・機関も増加していることは評価するが、第二期中期目標期間中の年度評価において「年度計画を上回って実施している」のは平成26年度のみであり、また、それ以降の海外派遣学生数は伸びていないことから、「中期計画を上回って実施している」とは判断できない。

## ウ 評価に当たっての意見、指摘等

### [27] 教育：留学生の派遣・受入促進

今後、協定校を増加させ、留学生の受入を進めていくのであれば、留学生の宿舍の整備など受入体制の充実を図るとともに、留学指導の実施に当たっては、eポートフォリオの更なる活用を期待したい。

### [28] 教育：キャリア形成支援体制の強化

講座の開講を始め、各種キャリア形成支援に取り組み、成果も出ているようであるが、今後、社会情勢による就職状況の変化も見据えながら、より一層のキャリア形成支援体制の強化等に取り組まれることを期待したい。

## 【芸術大学】

### ア 小項目評価結果

区分	教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	13	3	4	20	90.9
年度計画を上回って実施している	1	1	0	2	9.1
計	14	4	4	22	100.0

### イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

#### (ア) 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

##### [55] 教育：在学生から卒業生まで幅広いキャリア支援

「キャリア支援室」を新設し、キャリア支援講座の拡充や芸術系大学として初となる「芸術学生のための合同企業説明会」を開催し、規模・内容を充実させながら継続実施しており、その結果、就職希望者における内定率が平成30年度に初めて90%を上回った。

また、「エマージングコンサート」「アートマネジメント」「若手芸術家育成プロジェクト」の実施し、在学生から卒業生まで幅広く自立支援を推進した。

##### [59] 研究：教員による芸術活動の推進・成果の発信

海外協定校への教員派遣による合同コンサートの実施や、講演・ワークショップ、国際シンポジウムでの成果発表など、海外各地において芸術活動の成果を発信した。

また、自治体や民間企業等と連携した受託研究・共同研究を積極的に実施し、その成果を発信するとともに、創立50周年記念事業として、オペラ公演や国際的なシンポジウム、展覧会など多数の企画を実施し、芸術活動を広く県民へ発信した。

#### (イ) 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

#### (ウ) 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

##### [47] 教育：世界に通用する芸術家の育成

法人自己評価「中期計画を上回って実施している」

→ 評価委員会評価「中期計画を十分に実施している」

#### 理由

アーティスト・イン・レジデンス事業による専門・実技教育の実施や海外大学との積極的な学術交流協定の締結により海外渡航者の大幅な増加については

評価するが、第二期中期目標期間中の年度評価において「年度計画を上回って実施している」のは平成28年度のみであり、その評価理由であるパリ＝ソルボンヌ大学とのコチュテルの協定に基づく博士論文の共同指導については、その後継続していないことから、「中期計画を上回って実施している」とは判断できない。

#### ウ 評価に当たっての意見、指摘等

##### [64] 地域連携・貢献：栄サテライトギャラリー展覧会等入場者数 4,000 人

平成29年8月に栄サテライトギャラリーが閉廊し、平成30年度はやむを得ず再開できなかったものの、閉廊までの間、様々な企画の実施により入場者数を着実に伸ばすなど、芸術の情報発信の場としてその役割を果たした。

新サテライトギャラリーが令和元年6月よりオープンしたが、これまで以上に積極的な情報発信に努めるとともに、卒業生の活躍の場としても活用されることを期待したい。

## 2 法人運営の改善に関する項目

### (1) 評価結果

S	非常に優れている。(特に認める場合)
A	良好である。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね良好である。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	不十分である。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	重大な改善事項がある。(特に認める場合)

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	10	0	10
評価区分ごとの項目数の内訳			10		10
組織運営の改善			4		4
人材の確保・育成			4		4
効率的・合理的な業務執行			2		2

#### 評価区分

- I 中期計画を実施していない。
- II 中期計画を十分には実施していない。
- III 中期計画を十分に実施している。
- IV 中期計画を上回って実施している。

### (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

#### ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

#### イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

#### ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

##### [73] 職員の資質向上に向けた組織的な取組

法人自己評価「中期計画を上回って実施している」

→ 評価委員会評価「中期計画を十分に実施している」

#### 理由

「事務職員人材育成方針」を全面改正し、階層別研修を新たに実施するなど、研修体系の整備・充実を図るとともに、名古屋大学との人事交流や愛知県及び文部科学省への研修生派遣などを実施したことは評価するが、第二期中期目標期間中の年度評価において「年度計画を上回って実施している」のは平成28年度のみであり、また実施内容をみても中期計画の範囲内の取組であるため、「中期計画を上回って実施している」とは判断できない。

### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

### 3 財務内容の改善に関する項目

#### (1) 評価結果

S	非常に優れている。(特に認める場合)
A	良好である。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね良好である。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
<b>C</b>	<b>不十分である。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)</b>
D	重大な改善事項がある。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	1	2	0	3
評価区分ごとの項目数の内訳		1	2		3

#### 評価区分

- I 中期計画を実施していない。
- II 中期計画を十分には実施していない。
- III 中期計画を十分に実施している。
- IV 中期計画を上回って実施している。

#### (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

##### ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

##### イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

###### [78] 一般管理費比率の対前年度比減

施設設備・維持管理修繕等の増加や情報基盤更新、警備・植栽維持管理委託経費等の増加により、対前年度比減を達成できなかった年度がある。

##### ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

#### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

##### [76] 自己収入の増加に向けた取組の強化

各大学において、それぞれが取組を強化しているところであるが、今後は、1法人2大学の利点を活かし、県立大学と芸術大学の共同プロジェクトを進めていくことも検討されたい。

#### 4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目

##### (1) 評価結果

S	非常に優れている。(特に認める場合)
A	良好である。 (すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね良好である。 (Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	不十分である。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	重大な改善事項がある。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	2	1	3
評価区分ごとの項目数の内訳			2	1	3
評価の充実			1		1
情報公開等の推進			1	1	2

評価区分	
I	中期計画を実施していない。
II	中期計画を十分には実施していない。
III	中期計画を十分に実施している。
IV	中期計画を上回って実施している。

##### (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

###### ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

###### イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

###### ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

###### [80] 大学のブランド・知名度の向上に向けた広報活動

法人自己評価「中期計画を十分に実施している」

→ 評価委員会評価「中期計画を上回って実施している」

###### 理由

広報機能の強化と情報発信力の向上のため、県立大学・芸術大学ともに広報機能の推進体制を明確化するとともに、法人としての広報活動計画を策定し、広報戦略会議を立ち上げた。その結果、記者発表件数及び新聞掲載件数が大幅に増加したことから、「中期計画を上回って実施している」と評価できる。

##### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

## 5 その他業務運営に関する重要項目

### (1) 評価結果

S	非常に優れている。(特に認める場合)
<b>A</b>	<b>良好である。 (すべてⅢ～Ⅳ)</b>
B	おおむね良好である。 (Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	不十分である。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	重大な改善事項がある。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	7	0	7
評価区分ごとの項目数の内訳			7		7
施設・設備の活用及び安全管理			4		4
社会的責任及び法令遵守			3		3

評価区分	
I	中期計画を実施していない。
II	中期計画を十分には実施していない。
III	中期計画を十分に実施している。
IV	中期計画を上回って実施している。

### (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

#### ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

#### イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

#### ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

## 参考資料

### ○ 愛知県公立大学法人の第二期中期目標期間の業務実績評価実施要領

#### 1 趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の中期目標期間の業務実績に関する評価（以下「総合評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

#### 2 評価方針

総合評価は、次に掲げる方針により行う。

- (1) 大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。
- (2) 中期計画に定めた項目ごとの具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。
- (3) 評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。
- (4) 評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

#### 3 評価方法

総合評価は、中期計画の大項目を単位として、中期目標に対する達成状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、事業活動全般、業務運営（財務、人事等）などの法人の活動全体について評価する「全体評価」により行う。

総合評価の実施にあたっては、法人が中期計画の項目ごとに業務実績を記入し、その進捗状況を法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し評価する。

なお、戦略性が高く意欲的な計画等は、達成状況の他にプロセスや内容を評価する等、積極的な取組として適切に評価する。

##### ① 項目別評価

当該中期計画に定める各項目について、その実施状況を確認することにより、当該中期目標の達成状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目については、その質の向上に資する施策の達成状況を、当該期間終了時までには実施された認証評価機関の評価も踏まえて評価する。

##### ア 法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとにⅠ～Ⅳランクの４段階で評

価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評 価 基 準
IV	中期計画を上回って実施している。
III	中期計画を十分に実施している
II	中期計画を十分には実施していない。
I	中期計画を実施していない。

#### イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の4段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や達成できなかった点についてコメントを付す。

#### ウ 評価委員会による評価

小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに達成状況について、S、A、B、C、Dランクの5段階で評価する。

なお、小項目ごとの評価結果については、あらかじめ法人が項目ごとの重要性を考慮して設定したウエイトを踏まえて評価する。

ランク	評 価 基 準
S	中期目標の達成状況が非常に優れている。 (特に認める場合)
A	中期目標の達成状況が良好である。 (すべてⅢ～Ⅳ)
B	中期目標の達成状況がおおむね良好である。 (Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	中期目標の達成状況が不十分である。 (Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。 (特に認める場合)

※大項目で「Ⅲ～Ⅳが9割未満」の場合については、Ⅱ以下となった項目の重要性・計画の実施状況等を勘案した上で、総合的に評価する。

## ② 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の活動全体について記述式により評価する。

#### 4 報告書の提出

報告書は、別紙様式により、中期目標の期間の終了後3月以内に評価委員会に提出する。

#### 5 評価結果

- (1) 評価結果は、法人に通知する。
- (2) 評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。
- (3) 評価委員会は、前2項における内容を知事に報告するとともに、公表する。
- (4) 知事は、前項の報告を受けたときは、議会に報告する。

### ○ 愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿

氏名	職名
梅原 秀哲 (委員長代理)	名古屋工業大学名誉教授
岡田 亜弥 (委員長)	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
河辺 一郎	愛知大学現代中国学部教授
九鬼 綾子	ミックインターナショナル株式会社代表取締役
二村 友佳子	公認会計士・税理士 名古屋工業大学監事

(五十音順、敬称略)